



令和4（2022）年6月1日
日本介護食品協議会

報道関係各位

「UDF(ユニバーサルデザインフード)」生産額 520 億円

- ◆前年対比は生産量 99.6%・生産額 103.0%
- ◆製品登録数は 2,214 アイテム
- ◆「介護食品」の認知率ほぼ 5 割（認知度定点調査結果）

<リリースサマリー>

「UDF（ユニバーサルデザインフード）」生産額 520 億円

◆前年対比は生産量 99.6%・生産額 103.0%

今般、日本介護食品協議会（会長：森 佳光（キューピー㈱ 執行役員 広報担当）、会員企業数 90 社）は、会員企業を対象に令和 3（2021）年（暦年）の UDF 生産統計を集計した。この結果、生産量 77,460 トン、生産額 52,412 百万円で前年対比はそれぞれ 99.6%、103.0%と、数量では前年並み、金額で引き続き増加した。

◆製品登録数は 2,214 アイテム

UDF（ユニバーサルデザインフード）の製品は、現在 2,214 品目が登録されている（前年同期から 53 品目増）。

◆「介護食品」の認知率ほぼ 5 割（認知度定点調査結果）

本会では、介護食品や UDF（ユニバーサルデザインフード）の認知度調査を隔年で行っており、調査年の今年は 4 月に実施した（前回は令和 2（2020）年 4 月）。調査対象はインターネットアンケートに参加した一般消費者で、食事介護者の有無や年代別に集計を行った。

この結果、介護食品が市販されていることを「知っている」との回答は全体で 49.0%と前回の 49.2%とほぼ同数であった。

* 本リリースの詳細については 3 ページ目以降をご参照ください

* 本リリースについては協議会ホームページからもご覧いただけます。 <https://www.udf.jp/>



日本介護食品協議会 ニュースリリース



令和4（2022）年6月1日
日本介護食品協議会

「日本介護食品協議会」について ～介護食品の規格を統一～

我が国は、すでに「超高齢社会」となっていますが、以前より食品メーカーでは「介護」シーンでの利用を考慮した食品の開発や販売を行ってきました。しかし、当初の「介護食品」はメーカーによって製品の規格や表示方法が異なるため、利用者の不便が指摘されていました。

そこで、これら利用者の不便を解消するため、食品メーカーを中心に、素材や容器など多くの企業が集まり、『日本介護食品協議会』を設立（平成14（2002）年4月）し、介護食品の「食べやすさ」「使いやすさ」などについて「統一規格」を制定（平成15（2003）年6月）しました。協議会ではその規格に適合する製品をすべての人が食べやすいことから「UDF（ユニバーサルデザインフード）」とし、以降、次々とUDFロゴマークを表示した製品が誕生、現在もその数は増え続けています（令和4年（2022）年5月末現在2,213品目を登録）。

協議会では、「UDF（ユニバーサルデザインフード）」をすべての利用者に安心して使っていただくために、関連する情報の発信や普及啓発活動、自主規格の整備などを行い介護食品業界の健全な発展を目指すとともに、みなさまの食べる楽しみを通じてQOL（クオリティーオブライフ・生活の質）の向上に貢献していきたいと考えています。

*会員企業数は、令和4年（2022）年6月1日現在90社となっています。

「UDF（ユニバーサルデザインフード）」とは

日常の食事から介護食まで幅広くお使いいただける、食べやすさに配慮した食品です。その種類も様々で、レトルト食品や冷凍食品などの調理加工食品をはじめ、飲み物やお食事にとろみをつける「とろみ調整食品」などがあります。

UDF（ユニバーサルデザインフード）のパッケージには、必ずUDFマークが記載されています。これは日本介護食品協議会が制定した規格※に適合する製品だけについているマークです。お客さまが選びやすいよう、どのメーカーの製品にも「かたさ」や「粘度」の規格により分類された4つの区分については「容易にかめる」「歯ぐきでつぶせる」「舌でつぶせる」「かまなくてよい」を、とろみ調整食品については「とろみ調整」をUDFマークとともに表示しています。これらの表示を目安にご利用に適した製品を安心して選んでいただけます。

まずはパッケージのUDFマークをご覧ください。

※協議会会員である食品メーカーはこの規格に基づき製品を製造・販売しています。

*UDF（ユニバーサルデザインフード）区分表等については8ページをご参照下さい。

【問合せ先】

日本介護食品協議会 事務局

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町10-2

翔和神田ビル3階

電話 03-5256-4804 FAX 03-5256-4805





日本介護食品協議会 ニュースリリース



令和4（2022）年6月1日
日本介護食品協議会

<以下、1 ページ見出しの詳細>

「UDF（ユニバーサルデザインフード）」生産額 520 億円

◆前年対比は生産量 99.6%・生産額 103.0%

今般、日本介護食品協議会（会長：森 佳光（キューピー㈱ 執行役員 広報担当）、会員企業数 90 社）は、会員企業を対象に令和 3（2021）年（暦年）の UDF 生産統計を集計した。この結果、生産量 77,460 トン、生産額 52,412 百万円で前年対比はそれぞれ 99.6%、103.0%と、数量では前年並み、金額で引き続き増加した。

■【区分別】

まず、区分別集計の全体（市販用・業務用合計）では、「容易にかめる（区分 1）」が生産量 53,424 トン、生産額 22,460 百万円で、前年対比各 98.2%、100.5%、「歯ぐきでつぶせる（区分 2）」が同 5,387 トン、4,368 百万円、同 90.5%、94.5%、「舌でつぶせる（区分 3）」が同 9,338 トン、10,234 百万円、同 105.5%、107.7%、「かまなくてよい（区分 4）」が同 5,255 トン、5,636 百万円、同 113.6%、113.4%、「とろみ調整食品」が 4,056 トン、9,714 百万円、同 102.5%、103.0%であった。

一昨年より「容易にかめる（区分 1）」の生産量、金額が他の区分とはケタ違いの増加となったが、これは市販用 UDF に加わった食パン製品に起因することは以前も記載した。これらの品目は、区分 1 のみでなく UDF 全体の動向に対しても影響を与える。21 年集計分については、前年（20 年）にコロナ禍において内食需要が好調に推移した反動を受けたものとみられる。

一方、「歯ぐきでつぶせる（区分 2）」をみると、区分 1 と同様に一昨年より大幅な増加をみたが、21/20 年対比では区分 1 同様前年割れとなった（数量、金額とも）。同区分については、業務用にて終売となった製品が重なった等に起因するものとみられる。市販用については好調であった。「舌でつぶせる（区分 3）」では、市販用の数量が若干の減少をみたが、業務用は増加となった。「かまなくてよい（区分 4）」は市販用、業務用ともに引き続き好調に推移した。区分別の集計では区分 4 が唯一の 2 ケタ増であったが、同区分については、在宅でのミキサーやペースト食の調理負担軽減の観点から積極的なリピートがあったものとみられる。業務用での増加はゼリー類などの常温品が引き続き多く利用されたが、前年同様にコロナ禍での衛生面での配慮などを理由に利用が進んだと推測される。

「とろみ調整食品」についても増加となったが、水分摂取や食品をまとめるあんとして汎用性が高く、市販、業務用をとわず必須の食品として定着している。

各区分の生産量構成比率（カッコは生産額）をみると、区分 1 から「とろみ調整食品」まで順に 69.0%（42.9%）、7.0%（8.3%）、12.1%（19.5%）、6.8%（10.8%）、5.2%（18.5%）となっている。



令和4（2022）年6月1日
日本介護食品協議会

■【タイプ別】

「乾燥タイプ」（とろみ調整食品やアルファ化米、加水して成型する粉末製品を含む）が生産量 4,175 トン、生産額 10,114 百万円で、前年対比はそれぞれ 102.0%、102.0%であった（全体からの構成比は生産量・生産額各 5.4%・19.3%）。「冷凍タイプ」については、16,309 トン、15,313 百万円、同 102.2%、104.4%（同 21.1%・29.2%）、「常温タイプ」については、56,976 トン、26,985 百万円、同 98.7%、102.6%となっている（同 73.6%・51.5%）。

「常温タイプ」以外が増加となったが、同タイプについては数量、金額とも「容易にかめる（区分1）」の動向に大きく影響を受け、21年は減少となった。20/19年比で減少した「冷凍タイプ」は微増に転じたが、コロナ禍の影響を受けて滞っていた施設や病院給食等での利用が回復してきたものとみられる。

また、「常温タイプ」は、レトルト製品、カップゼリー製品、その他製品（パンなど）で構成されるが、前回同様、その他製品の比率が高い。ちなみに、「常温タイプ」のうち、レトルト製品については市販用が9割を超えているが、カップゼリー製品については多くが業務用に仕向けられている。なお、「常温タイプ」には近年徐々に増加しているチルド流通帯の製品も含めて集計している。

■【販売先別】

まず、市販用、業務用について各全体の生産量と販売額をみると、常温品が中心の市販用においては生産量 52,723 トン、生産額 27,031 百万円で、前年対比はそれぞれ 97.5%、100.4%とほぼ前年並みであった。一方、施設や病院の給食等に利用される業務用をみると 24,737 トン、25,381 百万円で同 104.5%、106.0%とそれぞれ増加した。市販用・業務用比率は 68.1%（前回 68.5%）、31.9%（同 30.5%）であった（生産量ベース）。

販売先別の各区分構成比率（生産量ベース）をみると、市販用は「容易にかめる（区分1）」～「とろみ調整食品」の順に 86.8%、2.2%、2.7%、4.3%、4.1%であった。業務用では、同様に 31.0%、17.2%、32.1%、12.0%、7.7%であった。

市販用のうちレトルト製品をみると、前年対比は 121.2%（生産量ベース）と好調であった。市販用レトルト製品の区分別前年対比みると（生産量ベース）、「容易にかめる（区分1）」が 93.7%と引き続き減少、「歯ぐきでつぶせる（区分2）」が 119.6%、「舌でつぶせる（区分3）」が 98.0%と減少に転じ、「かまなくてよい（区分4）」は 159.3%であった。今回の集計では区分4がとりわけ好調であった。市販用は主な販売先としてドラッグストア、総合スーパー、通販での取り扱いが多い。

業務用では冷凍品が7割近くを占めているが、前年対比 102.2%（生産量ベース）と前年の減少から増加に転じた。冷凍品の区分別前年対比みると（生産量ベース）、「容易にかめる（区分1）」が 109.1%、「歯ぐきでつぶせる（区分2）」が 85.9%、「舌でつぶせる（区分3）」が 109.4%、「かまなくてよい（区分4）」が 110.6%であり、区分2のみが前年を下回った。



令和 4 (2022) 年 6 月 1 日
日本介護食品協議会

◆製品登録数は 2,214 アイテム

UDF (ユニバーサルデザインフード) の製品は、現在 2,214 品目が登録されている (前年同期から 53 品目増)。

協議会加盟企業数は増加の一途であり、利用者の期待に応えるべく各社それぞれの技術を用いて「おいしさ」「食べやすさ」を追求した多くの製品を提供している。今後も UDF 登録製品は増加をたどることが見込まれる。

【UDF 製品登録状況】

	区分 1 容易にかめる	区分 2 歯ぐきでつぶせる	区分 3 舌でつぶせる	区分 4 かまなくてよい	とろみ調整	UDF 拡張規格	合計
乾燥食品	0	11	8	1	91	4	115
冷凍食品	343	258	781	20	0	0	1,402
常温食品	239	81	213	162	2	0	697
合計	582	350	1,002	183	93	4	2,214

(令和 4 (2022) 年 5 月末現在)

◆「介護食品」の認知率ほぼ 5 割 (認知度定点調査結果)

本会では、介護食品や UDF (ユニバーサルデザインフード) の認知度調査を隔年で行っており、調査年の今年は 4 月に実施した (前回は令和 2 (2020) 年 4 月)。調査対象はインターネットアンケートに参加した一般消費者で、食事介護者の有無や年代別に集計を行った。

この結果、介護食品が市販されていることを「知っている」との回答は全体で 49.0%と前回の 49.2%とほぼ同数であった。このうち「家族に食事介護者がいる世帯」を見ると、51.7%が「知っている」と回答 (前回 55.8%)。「介護者がいない世帯」についても 48.2%が認知していた (同 47.6%)。「ユニバーサルデザインフードを知っている」については、全体で 12.2%と前回に比較して減少した (前回 13.2%)。これは「食事介護者あり世帯」を見ると 22.4%であった (前回 24.9%)。

また、年代別集計を見ると、介護食品が市販されていることを「知っている」については 60 代以上が 63.0%と最も高く、50 代 54.0%、40 代 50.5%、30 代 42.5%、20 代 35.0%の認知があった。逆に「ユニバーサルデザインフードの認知率」については順に、20 代 17.5%、30 代 14.5%、40 代 13.0%、60 代以上 9.5%、50 代 6.5%と若年世代で高かった。



令和4（2022）年6月1日
日本介護食品協議会

さらに、「低栄養」についての認知率では、「よく知っている」15.3%（前回 11.1%）、「名前だけ知っている」25.6%（同 28.4%）、「初めて聞いた」59.1%（同 60.5%）であった。「食事介護者あり世帯」では順に、28.9（前回 22.8%）、21.1%（同 34.5%）、50.0%（同 42.6%）であった。年代別の認知度では、「よく知っている」は60代以上が20.5%、「名前だけ知っている」は50代32.0%、60代以上31.0%、「初めて聞いた」は30代が67.5%であった。

【調査方法等】

- ① 調査方法 インターネットアンケート
- ② 調査対象 インターネット調査会社（ネオマーケティング社）に登録している全国の一般モニター会員 1,000 人（20 歳代～60 歳代以上・男女各 100 名）
- ③ 対象地域 全国
- ④ 調査期間 令和4（2022）年4月

【問 あなたは介護食品が市販されているのをご存知ですか】

「知っている」と回答があった割合

＜全体＞49.0%（前回 49.2%）

＜食事介護者の有無による集計＞

- ・食事介護が必要な方がいる世帯 51.7%（前回 55.8%）
- ・食事介護が必要な方がいない世帯 48.2%（同 47.6%）

＜年代別集計＞

- ・20代 35.0%（前回 38.5%）、30代 42.5%（同 50.0%）、40代 50.5%（同 44.0%）、50代 54.0%（同 54.0%）、60代 63.0%（同 59.5%）

【問 あなたはユニバーサルデザインフードをご存知ですか】

「知っている」と回答があった割合

＜全体＞12.2%（前回 13.2%）

＜食事介護者の有無による集計＞

- ・食事介護が必要な方がいる世帯 22.4%（前回 24.9%）
- ・食事介護が必要な方がいない世帯 9.1%（同 10.3%）

＜年代別集計＞

- ・20代 17.5%（前回 24.0%）、30代 14.5%（同 15.5%）、40代 13.0%（同 8.0%）、50代 6.5%（同 8.5%）、60代以上 9.5%（同 10.0%）

【問 あなたは低栄養についてご存知ですか】

「よく知っている」および「名前だけ知っている」と回答があった割合（以下、順に）

＜全体＞15.3%（前回 11.1%）、25.6%（同 28.4%）

＜食事介護者の有無による集計＞



ユニバーサルデザインフード

日本介護食品協議会 ニュースリリース



令和4（2022）年6月1日
日本介護食品協議会

- ・食事介護が必要な方がいる世帯 28.9%（前回 22.8%）、21.1%（同 34.5%）
- ・食事介護が必要な方がいない世帯 11.2%（前回 8.2%）、27.0%（同 26.9%）

＜年代別集計＞

・20代 16.0%（前回 13.5%）、21.5%（同 24.5%）、30代 13.0%（同 13.0%）、19.5%（同 24.0%）、
40代 14.0%（同 8.5%）、24.0%（同 27.5%）、50代 13.0%（同 9.0%）、32.0%（同 29.0%）、60
代以上 20.5%（同 11.5%）、31.0%（同 37.0%）



日本介護食品協議会 ニュースリリース



令和4（2022）年6月1日
日本介護食品協議会



ユニバーサルデザインフード生産統計

日本介護食品協議会

			平成30(2018)年		令和元(2019)年		令和2(2020)年		令和3(2021)年	
			数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)
区分	1	容易にかめる	6,267	5,309	35,664	16,026	54,381	22,351	53,424	22,460
	2	歯ぐきでつぶせる	2,871	2,671	6,294	4,631	5,953	4,622	5,387	4,368
	3	舌でつぶせる	7,929	8,299	8,515	9,025	8,848	9,499	9,338	10,234
	4	かまなくてよい	3,530	3,672	4,050	4,321	4,627	4,971	5,255	5,636
とろみ			3,578	8,683	3,864	9,040	3,956	9,434	4,056	9,714
合計			24,174	28,633	58,387	43,044	77,766	50,877	77,460	52,412
タイプ別	乾燥		3,605	8,771	3,899	9,347	4,091	9,912	4,175	10,114
	冷凍		11,730	11,646	16,887	14,903	15,963	14,663	16,309	15,313
	常温		8,839	8,216	37,601	18,793	57,712	26,302	56,976	26,985
合計			24,174	28,633	58,387	43,044	77,766	50,877	77,460	52,412
販売先別	市販		6,220	9,418	34,488	19,732	54,085	26,933	52,723	27,031
	業務		17,954	19,215	23,899	23,312	23,680	23,944	24,737	25,381
合計			24,174	28,633	58,387	43,044	77,766	50,877	77,460	52,412

※暦年集計

※金額は出荷ベース

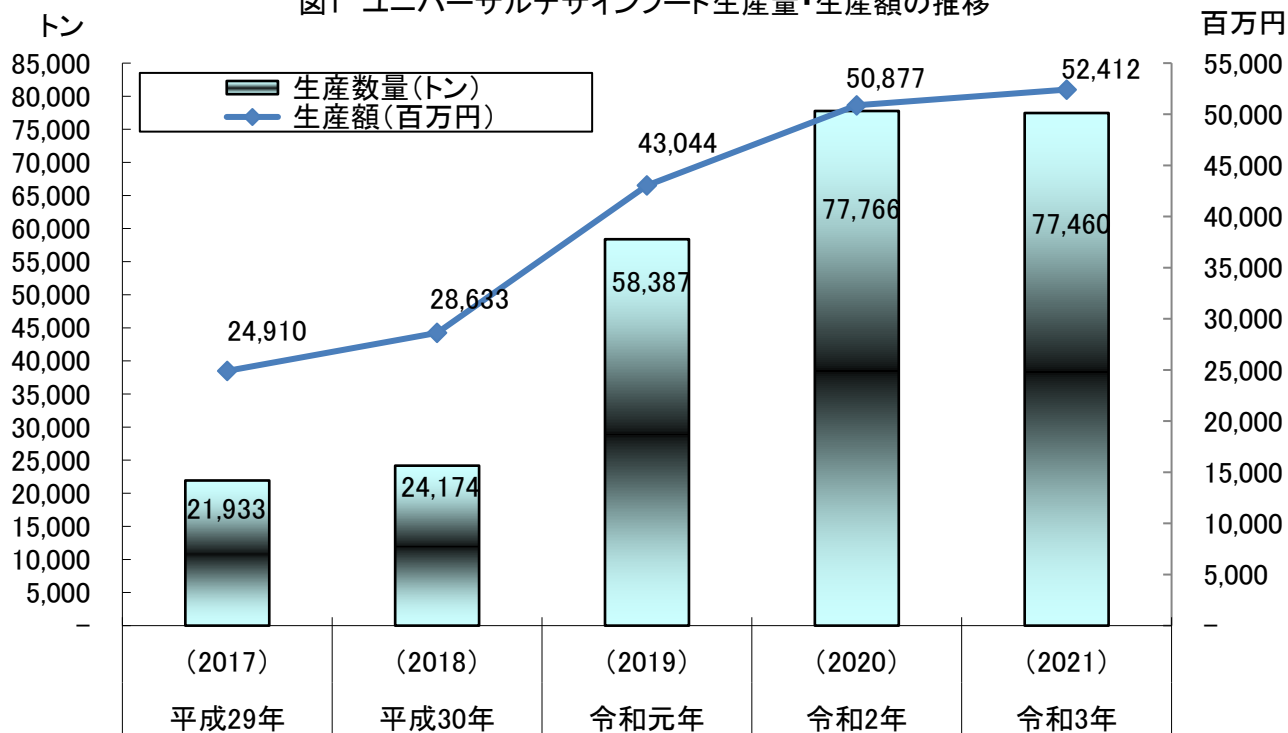
ユニバーサルデザインフード令和3(2021)年生産量・金額前年対比

			令和3(2021)年		令和2(2020)年		21/20年対比		21/19年対比	
			数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(%)	金額(%)	数量(%)	金額(%)
区分	1	容易にかめる	53,424	22,460	54,381	22,351	98.2	100.5	149.8	140.1
	2	歯ぐきでつぶせる	5,387	4,368	5,953	4,622	90.5	94.5	85.6	94.3
	3	舌でつぶせる	9,338	10,234	8,848	9,499	105.5	107.7	109.7	113.4
	4	かまなくてよい	5,255	5,636	4,627	4,971	113.6	113.4	129.7	130.4
とろみ			4,056	9,714	3,956	9,434	102.5	103.0	105.0	107.5
合計			77,460	52,412	77,766	50,877	99.6	103.0	132.7	121.8
タイプ別	乾燥		4,175	10,114	4,091	9,912	102.0	102.0	107.1	108.2
	冷凍		16,309	15,313	15,963	14,663	102.2	104.4	96.6	102.7
	常温		56,976	26,985	57,712	26,302	98.7	102.6	151.5	143.6
合計			77,460	52,412	77,766	50,877	99.6	103.0	132.7	121.8
販売先別	市販		52,723	27,031	54,085	26,933	97.5	100.4	152.9	137.0
	業務		24,737	25,381	23,680	23,944	104.5	106.0	103.5	108.9
合計			77,460	52,412	77,766	50,877	99.6	103.0	132.7	121.8

※本統計は日本介護食品協議会会員企業の「ユニバーサルデザインフード」生産統計です。介護食品全体の市場規模を表すものではありません。

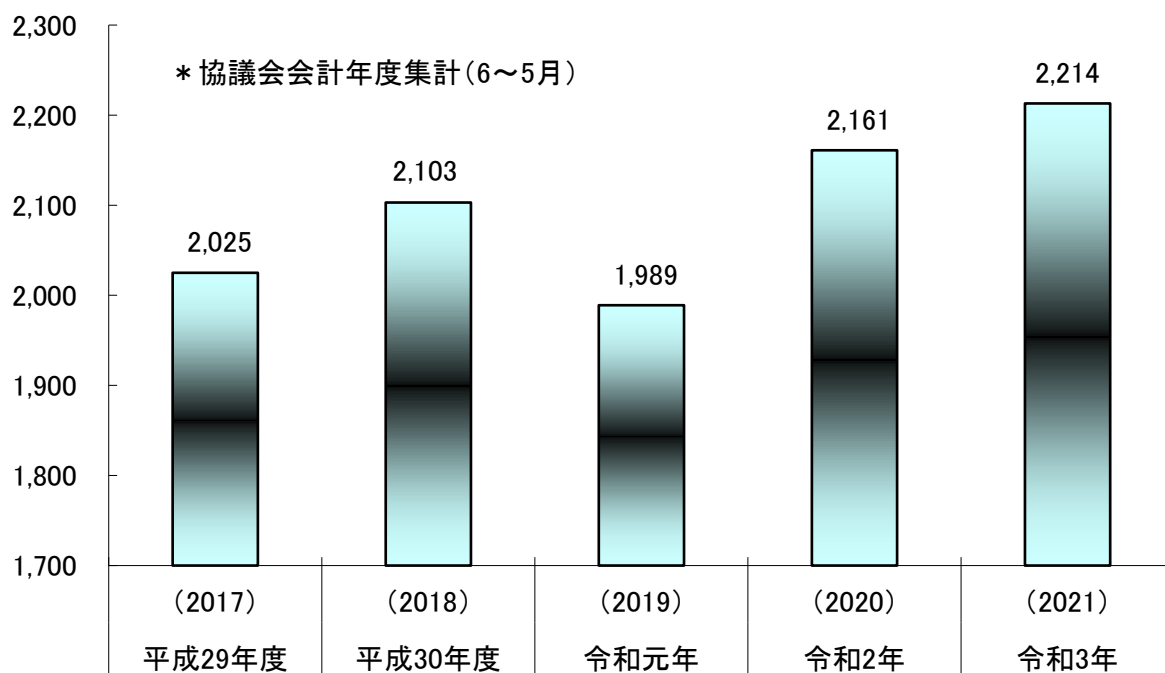
令和4(2022)年6月1日
日本介護食品協議会

図1 ユニバーサルデザインフード生産量・生産額の推移



品目

図2 ユニバーサルデザインフード製品登録数の推移



令和4（2022）年6月1日
日本介護食品協議会

＜参考資料＞

日本介護食品協議会会員企業は、食べやすさに配慮した食品を以下のように区分し、ユニバーサルデザインフード・ロゴマークとともにパッケージに表示しています。

●UDF（ユニバーサルデザインフード）区分表

区 分	 容易にかめる	 歯ぐきでつぶせる	 舌でつぶせる	 かまなくてよい
かむ力の目安	かたいものや大きいものはやや食べづらい	かたいものや大きいものは食べづらい	細かくてやわらかければ食べられる	固形物は小さくても食べづらい
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらい
かたさの目安	ごはん	ごはん～やわらかごはん	やわらかごはん～全がゆ	全がゆ
	たまご	厚焼き卵	だし巻き卵	スクランブルエッグ
	肉じゃが	やわらか肉じゃが	具材小さめやわらか肉じゃが	具材小さめさらにやわらか肉じゃが
調理例（ごはん）				
物性規格	かたさ上層値 N/mf	5×10 ³	5×10 ⁴	ソル: 1×10 ⁴ ゲル: 2×10 ⁴
	粘度下層値 mPa·s			ソル: 1500 ゲル: 5×10 ³

※「ソル」とは、液体、もしくは固形物が液体中に分散しており、流動性を有する状態をいう。「ゲル」とは、ソルが流動性を失いゼリー状に固まった状態をいう。

●とろみ調整食品のとろみの目安表示例

【とろみの目安の表示例】

とろみの強さ	++++	++++	++++	++++
とろみのイメージ	フレンチドレッシング状	とんかつソース状	ケチャップ状	マヨネーズ状
イメージ図				
使用量の目安	1g		2g	

水・お茶100mlあたり

●7月11日は「UDF（ユニバーサルデザインフード）の日」

7月11日は、2003年にユニバーサルデザインフード（UDF）の名称とロゴマークが商標登録を受けた日です。

本会では、この日を記念して2017年に「UDF（ユニバーサルデザインフード）日」といたしました。

ユニバーサルデザインフード
7月11日はUDFの日



7月11日は、2003（平成15）年にユニバーサルデザインフード（UDF）の名称とロゴマークが商標登録を受けた日です。

